

組合青年部活動助成事業 実施報告

ー広島県東部機械金属工業協同組合 東青会ー

去る3月7日(木)、キャステム(株) 代表取締役 戸田拓夫氏を講師に招聘し「今後の備後中小企業の進むべき道は」と題し、研修会を実施。自社の存在意義やどのような部分で社会的役割を担うべきなのかを自問することで役割を見直し、結果的に業績改善に繋がるといった今後の企業経営のヒントを得ることができ、また、知識や見聞も広めることができた。



～ 平成25年度 広島県商工労働局の施策 ～

【施策クローズアップ】

1) 中小企業イノベーション促進支援事業

→チーム型支援

全国トップレベルの専門家で構成された支援チームによる集中支援

2) 次世代ものづくり技術開発支援補助金

これまでの研究成果を基に、事業化を目指し連携して取り組む実用化段階の技術開発や試作品開発に対する経費を補助

3) F/S 研究開発補助金

県内企業が新技術・新製品開発の立ち上がり段階で連携して取り組む、技術的な可能性の検証に対する経費を補助

4) 中核的支援施設の運営

部品サプライヤーが抱える課題である「電動化」、「知能化」、「軽量化」などの技術ニーズに対応する支援体制を整備するため「カーサプライヤー支援センター」を設置

5) 生産技術革新支援補助金

生産現場改善指導等に基づき、生産性向上やコスト削減に向けた生産設備の更新・新生産技術の導入等を行う企業に対し、その経費を補助

6) 医療関連産業クラスター形成事業

医療関連産業クラスター形成のため、医療・福祉現場とのネットワークづくり、企業の研究開発・販路拡大等の活動支援、研究開発力強化のための環境整備を支援

7) 海外ビジネス展開支援事業

海外展開ニーズが高く、ビジネスチャンスが見込まれる地域・業種において、販路拡大・ビジネスマッチングの支援や調査活動を通じて、県内企業の海外展開を支援

8) イノベーション人材育成事業

県内中小・中堅企業のイノベーションの原動力となる高度で多彩な産業人材を育成し、新分野への展開や競争力強化を促進

詳細は広島県平成25年度当初予算の編成状況を参照ください。

～ 青年部活動助成事業を活用しませんか ～

青年中央会では、組合青年部活動の活性化を目的として、毎年青年部を対象に活動費の一部を助成しています。助成実績として



研修会、お客様を対象にした料理教室、会員親睦など様々な活動に対し助成しています。

平成25年度も元気で活発な青年部活動に対し助成を行う予定です。

～ ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金のご案内 ～

広島県中央会は、ものづくり中小企業・小規模事業者が実施する試作品の開発や設備投資等に要する経費の一部を補助する表題事業の地域事務局となりました。

(事業概要)

平成24年度補正予算、規模は全国で約1,000億円、1社当たり補助額は100万円～1,000万円(補助率は事業費の2/3)、広島県内では200社～300社の採択を予定。

(対象事業)

試作開発や設備投資により、競争力の強化が見込まれる事業計画に基づき実施される事業。

(公募期間)

第1回公募は3月15日から4月15日にて終了。第2回公募は5月～6月頃を予定。

活用を検討される方は中央会までお気軽にご相談ください。

～ 青年中央会活動報告 ～

開催日	行 事	出席者
12/3	第4回役員会 (中央会会議室)	16名
1/24	県知事を囲んでの集い (リーガロイヤルホテル広島)	56名
2/21～24	海外研修 (フィリピン・マニラ)	15名
3/26	正副会長会議 (中央会会議室)	6名



「県知事を囲んでの集い」広島にて盛大に開催！



円福寺会長

去る1月24日(木)、広島県中小企業団体中央会(会長 伊藤 學人)及び広島県中小企業団体青年中央会(会長 円福寺 雅之)は、リーガロイヤルホテル広島において「県知事を囲んでの集い」を開催した。

当日は組合青年部関係者、中央会会員等60名が出席。開会に先立ち、まず、広島県中央会伊藤學人会長及び青年中央会円福寺雅之の会長より主催者挨拶が行われ、引き続き「広島産業新成長ビジョン～イノベーション立県を実現します～」というテーマにて湯崎知事より講演が行われた。

講演の中で湯崎知事は、「広島県の経済・産業の現状は、自動車、船舶、機械、電子機器、鉄鋼、化学などを中心とした重厚長大産業であり、取り巻く環境としては人口の減少、新興国との競争激化、資源環境エネルギー問題などの課題がある。これらの諸問題に対応し、強固な経済基盤の構築と雇用を創出するために、イノベーション、アジアの成長市場への展開、産業人材の育成・集積、観光の強化を実現することが必要である。イノベーションにより、他では作れないものやサービスを提供できれば価格競争力が生まれ、高い利益を得ることが出来る。イノベーションは必ずしもハイテク、高度なものではなく、従来の技術・製品やサービスを組み合わせることで実現できる。そのための高度人材の育成にも取り組んでおり、海外展開に必要な人材の確保や、大学院などでの高度教育に対する支援も行っている。産業別の支援を縦の糸とし、イノベーションを横の糸として組み合わせることで、広島県が新しいステージに進むことが出来る。」と語られた。

次に、広島県中央会情報調査部 松村次長より、「中小企業団体中央会及び青年中央会について」と題し、中央会が事業協同組合等の中小企業組合を対象とした相談・支援機関であること、中央会会員組合の青年部が集まり青年中央会を組織していること及び青年中央会の目的と活動内容等について説明を行った。

最後に、中国コーヒー商工組合青年部 細野部長より、「中国コーヒー商工組合青年部の取り組み」と題し、オリジナルブレンドを開発した経緯など、青年部の取り組み事例の発表が行われた。

その後、青年中央会池久保副会長の乾杯あいさつにより懇親会が行われ、中国コーヒー商工組合青年部のメンバーが淹れたてのオリジナルブレンドコーヒーを、湯崎知事を初めとした出席者に振る舞い、マスコミの取材を受けた。また、湯崎知事に各テーブルを廻っていただき、参加者との意見交換や名刺交換を行うなど交流を深めた。和やかな雰囲気の中、最後に青年中央会の大方副会長による中締め挨拶があり、閉会となった。



湯崎知事



講演風景

～ 青年中央会にぜひ、ご加入を！！ ～

青年中央会には、現在様々な業種25組合(個人会員含む)、約400名の若手経営者が参加し、いろいろな活動を通じて参加メンバー間の絆を深めながら、様々な問題の解決、ビジネスチャンスの拡大等に向けて互いに助け合っています。あなたも今こそ青年中央会に参加して、自分のチャンネルを広げてみませんか？興味を持たれた方、参加してみようと思われた方は、事務局まで連絡ください。

青年中央会または組合青年部活動についてのお問い合わせは青年部中央会事務局まで

Tel 082-228-0926 E-mail chuokai@chuokai-hiroshima.or.jp

第12回海外研修 in フィリピン・マニラ



第 12 回目となる今年度の海外研修は『フィリピン：マニラ～FPIP～』を訪問した。

積極的な外資導入政策、英語を話せる豊富な若年労働力や外資優遇税制などを背景に発展を続けているフィリピン。今回の研修で訪問した住友商事（株）が管理・運営するファーストフィリピンインダストリアルパーク（FPIP）は、マニラ中心部マカティ地区から南方へ車で約 50 分の通勤圏内という抜群の立地条件、最高級のハードインフラに加え、入居企業に対する細かなサービスを提供し、36 社の日系企業が進出している。

2 日目の視察では、まず JETRO（日本貿易振興機構）マニラ事務所を訪問し、経済連携促進アドバイザーの辻様より対日感情の良い国民性、外資の投資環境などについて説明を受け、参加者と意見交換を行った。

◆マニラ進出の 5 つのメリット

- ①対日感情が良い／過去に戦争があったが、約 40 年前より対日感情が変化。
日本は戦後復興を成し遂げた憧れの国。
日本人に対する反感がなく、指示に従順。
- ②英語で会話できる／母国語はタガログ語であるが、学校の授業は英語で行われるなど、ほとんどの人が英語で会話でき、発音もきれいで、その語学レベルが高いため、日本人でもコミュニケーションがしやすい。



- ③投資環境／フィリピンの経済特区ではインカム・タックス・ホリデー（4～8 年間法人所得税免除）が適用される。免除期間終了後は総利益の 5%に課税される、シンプルな課税形態となっている。

- ④安い人件費／一般的に、460 ペソ／日（レート 2.44/円で 1,122 円）、初任給は 12,000～15,000 ペソ（30,000～36,000 円）

他国では、基本給が安くても法定福利費等を含め計算した場合、人件費コストが高くなる（中国の場合約 1.6 倍）など、注意が必要であるが、フィリピンでは 1.2 倍程度で収まっている。

また、労働人口も豊富で、最低賃金で人材の募集をしても、求人に対し約 10 倍程度の応募がある。背景には国内に主な産業がなく、多くは外国へ出稼ぎに行く労働者が多いため、国内で就労でき、また、日系企業のように信頼のある求人に対しては応募が多い。中国や韓国企業などは労働関係法規に対する認識が低く、一方、日系企業の認識は高いため、このことも日系企業の人気に拍車をかけている。

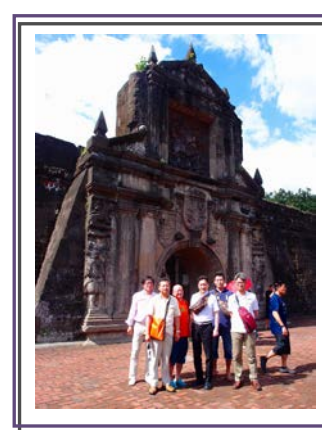
現在の人口ピラミッドから、将来的に賃金が急激に上昇する見込みはない。また、10 代の若者が 20 代を迎える頃に働く場を創出することが政府の課題となっているため、外国資本を誘致することに積極的である。

- ⑤働き者／フィリピン人の生活の中での優先順位は一般的に 1) 家庭 2) 宗教 3) 仕事となっており、仕事に対してまじめで働き者である。

	月日	行 程
1	2/21 (木)	福岡空港 → ニノイ・アキノ国際空港 15:25 18:05 ニューワールドホテル チェックイン 交流懇親会「ITALIANNIS」
2	2/22 (金)	視察研修 JETRO マニラ事務所 訪問 ファースト・フィリピン・インダストリアルパーク 訪問 ・工業団地内総合事務所(FPIP の概要説明) ・アーケテック(株) ・(株)ケディカ ・住商 GLP(株) 交流懇親会「Zanbanga」
3	2/23 (土)	観光グループ：市内視察(サンアンドレアスマーケット、サン・アングスティン教会、サンチェゴ要塞、ショッピングセンターなど) ゴルフグループ：サンタエレナ GC (R. T. ジョーンズ Jr. 設計の 27 ホール)
4	2/24 (日)	ニノイ・アキノ国際空港 → 福岡空港 9:45 14:20 宿泊：マカティ地区 ニューワールドホテル

続いて FPIP に移動し、2003 年（平成 15 年）フィリピンに進出したアーケテック（株）（精密板金加工、各種プレス加工及び組み立て、表面処理）、2004 年（平成 16 年）フィリピンに進出した（株）ケディカ（鉛フリーメッキのパイオニア）、住商グローバルロジスティックスフィリピン（国際物流）の 3 社を訪問し、現地の担当者からフィリピンでのビジネス、人材確保及び教育等に関する説明を受けるとともに、工場視察を行った。

3 日目は観光とゴルフに分かれ、観光ではサン・アンドレアス・フルーツマーケット、サンアングスティン教会（世界遺産）、サンチェゴ要塞などを見学し、ゴルフでは S.T. エレナ C.C でプレイを楽しんだ。



組合青年部全国講習会in福岡

平成 24 年 9 月 21 日（金）、福岡県福岡市の「ホテルニューオータニ博多」において、平成 24 年度組合青年部全国講習会（主催：全国中央会）が開催され、全国からおよそ 240 名の中小企業組合青年部に所属する若手経営者・後継者及び青年中央会事務局担当者が参加した。

12 時 30 分からの全国代表者会議では、組合青年部に所属する若手経営者・後継者のうち都道府県青年中央会（協議会）の代表者が一同に会して 7 グループに分かれ、グループディスカッション形式にて各地域の組合青年部・青年中央会が抱える問題や課題、それらの解決への取り組み及びその成果等について発表を行った。

14 時 45 分からは、都道府県青年中央会（協議会）の代表者以外の組合青年部関係者・事務局担当者も参加。開会にあたって主催者である鶴田欣也全国中央会会長、上山泰寛全青中会長からそれぞれ挨拶が行われ、続く講習会の第一部では、福岡県青年司法書士協議会有志により「会社経営者に求められる法律知識」と題し、司会進行役を櫻井菜穂子氏、質問者役を平田輔氏、回答者役を大城明恵氏、梶島浩二氏、矢鉾志成氏にそれぞれ務めていただき、①謄本の見方と債権回収 ②労働問題と役員の責任 ③事業承継などについて、ともすれば難解になりがちな法律問題をドラマ仕立てで、わかりやすくご説明いただいた。

第二部は、合資会社じじやの干物社長の秋武政道氏を講師にお迎えし、家業として受け継いだ干物店を一時は倒産寸前の経営危機に陥らせながらも、お客様の声を活かす独自のマーケティング手法により、行列のできる繁盛店にまで発展させたという実体験に基づく講演で、参加者を大いに感動させた。

講習会終了後に行われた懇親会では、上山全青中会長の主催者挨拶に続き、芳野勇一郎九州経済産業局産業部次長、鷺山俊勝福岡県中小企業経営金融課長、半田敦士福岡市経済観光文化局産業振興部長よりそれぞれご来賓挨拶を頂戴し、正木計太郎福岡県中小企業団体中央会会長の発声により乾杯が行われた。会場では福岡ソフトバンクホークスハニーズによるアトラクションが行われるなど、宴は大いに盛り上がり、参加者は全国各地の仲間とそれぞれ交流を深めた。

平成 25 年度組合青年部全国講習会は、三重県四日市市において 11 月 8 日に開催される予定。



【全国青年中央会 上山会長】



【講習会の様子】



【懇親会の様子】